



〈雑録〉歐洲戰時ノ經濟：平時ヨリ戰時へ(2)

大西，猪之介

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 19(1):129-146

(Issue Date)

1915-07

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052393>



歐洲戰時ノ經濟 (其二)

(平時ヨリ戰時へ)

在英國 商學士 大西 猪之介

第二節 經濟機關ノ調整

取引所ノ閉鎖、外國爲替ノ斷絶、銀行ノ取付ニ依テ英國經濟界ノ恐慌ハ八月一日(土)其頂點ニ達シ之ヲ放任シタラバ其末如何ニナル可キヤト危マレルノ勢デアツタガ、其際政治界ノ風雲ハ益々急トナリ、佛獨ノ開戦カラ白耳義ノ侵入トナリ、八月四日(火)ニハ遂ニ英獨開戦トナツタ、カク政治上ノ破裂ノ到來シタニ拘ラズ、英國經濟界ハ案外平穩ニ戰時狀態ニ入ツタノデアルガ、其原因ハ英國政府ガ大膽ニ有力ナル諸政策ヲトツテ是ニ備ヘタ爲デアル。

以下右ノ諸政策ヲ順次ニ列舉シテ簡單ナ説明ヲ施シタイ。

一 銀行休業日ノ延長

八月一日ハ土曜日デ英國ノ金融業者ハ午後休業シタ、翌二日ハ日曜デアリ、更ニ翌三日ハ定例ノ銀行休業日デアル、ソレデ此間金融界ハ全ク營業中止デアルガ、政府ハ此銀行休業日ヲ更ニ三日間延長シテ八月六日迄英蘭銀行ヲ閉鎖シタカラ、之ト密接ナ關係アル金融界モ亦其營業ヲ中止シタ、

乃チ前後通ジテ五日半英國經濟界ガ眠ツテ居ツタ間ニ英國ガ戰爭國トナツタモノデアルコトニ御注意ヲ促シタイ。

此銀行休業日ノ延長ニハ表面上公式ノ理由トテハ後ニ述ブル政府紙幣發行ノ準備ト云フコトガ舉ゲラレルノデアルガ、ソウ云フ手段トシテノ意味以外ニ此休業其レ自身ニ大ナル意味アリト私ハ考フル、其ハ此休業ト云フ手段ヲトラナカツタ獨逸金融界當時ノ混亂ト比較スレバ直ニ明白ナノデ一言ニ盡セバ歐洲戰爭ト云フ如キ不意打ヲ資本制經濟ニ加フル時ニハ一時「クロロフォルム」デ此經濟神經ヲ麻酔サレテオイテ、手術ガスンデカラ息ヲ吹返サセルコトニシタ方ガ都合ガ好イト云フニ歸着スル。

右ノ一時麻酔中政府ノトツタ手段ガ色々アルガ、敘述ノ便宜上最初金融界ニ直接ノ關係ハナイガ間接ニ大ニ關係アルニ政策ニ一瞥ヲ投ジタイ、鐵道及保險ノ國營卽チ是レデアル。

二 鐵道ノ國營

一九一四年八月五日カラ愛蘭ヲ除イタ英國全部ノ鐵道ハ政府ノ監督ノ下ニ移リ、South Western Railway Company 總支配人 Sir H. A. Walker 氏ヲ議長トシテ從來ノ各會社ノ支配人ヨリ組織サレタ委員會ガ政府ノ命令ニ應ジテ之ヲ經營シ、各鐵道ハ政府ノ爲ノ運送ヲ行フタ餘力ヲ以テ從來通り私人ノ爲ノ貨客運送ヲ行フコト、ナツタ。

カク政府ガ支配權ヲ握リ主トシテ軍用ニ鐵道ヲ使用スル結果各鐵道ノ私人ヨリ受クル運賃收入ガ

全體ニ於テ減少スルヲ補フ爲ニ一九一四年九月政府ハ鐵道會社ト協議ノ上、各鐵道ノ純收入ノ總額ガ一九一三年ト同一ノ額ニナル様ニ補償スルコト但一九一四年前半季ノ純收入ガ一九一三年前半季ヨリ減少シテ居ル時ハ其ニ比例シテ政府ノ給與金ヲモ減額スルコト、決定シタ。

此決定カラ我々ノ學ビ得ル第一ノコトハ政府ノ補償ハ自由主義ノ根本信條タル給付ニ對スル反對給付、生産高ニ對スル賃銀ト云フ思想デ決セラレズ、所得ノ確固生活賃銀ノ思想ニ基テ行ハレテ居ルコトデアル、勿論此場合余ガ生活賃銀ト名クルハ其前年度ノ生産高ガ基トナツテ決定セラレタモノデアルガ、平時ト戰時トデハ同一鐵道ノ給付能力ガ大ニ違ツテ來ルコトハ申ス迄モナク、各會社ガ政府ノ爲ニ行フタ運送給付ニ比例シテ報酬ヲ受クルトナレバ、各鐵道會社間ニハ前年度トハ大ニ違ツタ收入狀態ガ現ハレル可キコトヲ考ヘテ頂キタイ。

殊ニ興味アルハ鐵道自身ノ總純收入及政府ヨリ受ケタ補償額ハ之ヲ一體ト看倣シ各會社間ニ一九一三年ノ各會社ノ純收入ニ應ジテ分配スルトノ規定デアル、コレハ明ニ戰爭ニ依テ純收入ノフエタ會社ガ戰爭ニヨツテ純收入ノ減ツタ會社ヲ助ケルト云フ事デアル、極端ナ場合ヲ想像シテ或線路ガ戰爭ノ爲ニ大ニ忙ガシクナリ、私人ヨリ得ル純收入ガ一九一三年ヨリ多クナツタトスレバ——タトベ Great Northern Railway ハ八月頃旅客ハ大ニ減ツタガ全體トシテ貨物ノ運送ガ大ニ盛デアツタ爲ニ一九一四年八月五日カラ十二月三十一日迄ニ其純收入ハ一九一三年同期ヨリ大デアツタ——其會社ハ政府ノ爲ニ如何ニ運送ヲシタニセヨ一文ノ補償金ヲモ得ヌノミナラズ、進シデ其一九一三

年ニ超過シタ純收入ハ政府ヲ經テ戰爭ノ爲ニ純收入ノ減ツタ會社ヘ與ヘテバナラス、其際其會社ノ純收入ノ減少ガ政府ノ爲ニ運送ヲ行ツタ爲カ或ハ又戰爭ノ爲ニ生ジタ變化ニヨツテ(例バ避暑地ノ爲ノ鐵道ノ如ク)政府ノ爲ノ運送ナリトモ自然ニ減ツタカラ問ハナイコトニナル、換言セバ餘計働イタ鐵道ガ忘ケテ居ル鐵道ヲ助ケルコトニナル、是レ明ニ個人主義ノ根本信條ノ打破デアル。

私經濟的ニ見テ右ノ規定ノ結果、各會社ノ一九一四年ノ配當ハ前半季ノ純收入ノ減少シタ時ニハ其減少自身ノ外ニ政府ノ給與額ノ減少ヲ齎ス爲ニ一九一三年ヨリ少クナル可キデアルガ、事實一九一四年前半季ノ純收入ハ前年ヨリ平均三分シカ減少シテ居ナイ上、多數ノ會社デハ一九一三年ノ純收入中配當ニシナイデ準備金又ハ後期繰越トシタ額ガ多イカラ一九一四年ノ配當ハ一九一三年ノ配當ト大差ナカラシメ得ル筈デ、一九一五年ニ入ツテ發表サレタ大鐵道ノ配當ハ多ク右ノ豫想ヲ確メテ居ル。

元來英國デハ近年鐵道ヲ國有ニスベキヤ否ヤトノ論ガ盛ニ行ハレタノデ、其際反對論者ガ如何ニシテ行フ可キカ想像スルダニ不可能ダト論ジタ財政上ノ決定ガ右ノ如ク簡單ニ出來上ツテシマツテ然モ此新狀態ノ下ニ於ケル鐵道ハ今日迄ノ處何等大シタ缺點不平ナク經營セラレテ其職責ヲ盡シツツアル。

此事實ハ之ヲ利用スル人ノ氣分次第ドウトモ解釋出來ル——コレ位無雜作ニ行クカラ鐵道ハ國有ニシタツテヨカラウトモ云ヘル、必要アル際ソレ位無雜作ニ行ク位ナラ何モ態々平生カラ國有ニ

シテオク必要ハナカラウトモ云ヘル。

三 保險ノ國營

歐洲戰爭ノ徵候現ハレルト共ニ、カウ云フ戰爭危險ハ一體ドレ位ニナルカ分ラナイ爲ニ保險ハ殆ンド不能トナリ、東洋行保險ノ如キハ平時五志デアツタ率ヲ二十「ギニー」(乃二割)ニ引上ゲル保險會社サヘアツタ、カウ云フ調子デハ到底海外貿易ノ杜絶トナル外ハナイト見タ英國政府ハ帝國防備委員會ノ部報トシテ一九一四年秋季ニ發表シテ議論批評ノ種ニスル筈ノ白文書「戰時ニ於ケル英國海運保險」ヲ繰上ゲテ八月三日ニ發表シ八月四日ロイド、ジョージ議會デ船舶及貨物保險ノ計畫ヲ發表シ、其翌五日午後二時戰時保險局貨物部が開カレテ最高保險率五分(乃五「ギニー」)五(五磅五志)デ續々契約ヲ引受ケタ。

此貨物保險ハ英國船主保險組合又ハ政府ノ認メタ他ノ組合ニ保險サレタ英國船ニ積込マレタ荷物ニ就テノミ適用サレルノデ、右ノ保險率ハ八月四日四分、八月十八日三分、九月一日二分、十二月十一日一分半ト下ツタ末、十二月三十一日ニ豫定ノ最低率一分ニ達シタ。

次ニ船舶保險ハ開戰後出港スル船舶ニ付テ其現在ノ組合保險者ガ戰時保險ノ二割ヲ引受クルナラバ、政府ハ殘餘ノ八割ヲ五分ノ最高率トシ原保險者ト同一ノ保險率デ引受ケルコト、定メタ、此保險ニ附シ得ル船舶ハ英國船ニ限リ又船主船長ガ海軍省ノ一切ノ指令ニ從フコトヲ條件トスル。

右ノ船舶保險料モ九月初ニ、單航海デハ一分二厘五毛カラ一分ニ、復航海^{ラウンドボイエイジ}デハ二分五厘カラ二

分ニ三箇月ノ期間保險デハ四十志カラ三十志ニ下リ、又八百哩以下ノ底荷航海ハ次ノ航海ノ一部ト見ル事トサレタ。

今開戰後英國ガドレ程戰爭ノ爲ニ損害ヲ被ツタカト云フニ、英國海軍省ノ統計ニヨルト、開戰當時總登簿噸數百噸以上ノ汽船ガ、英國ニ一萬〇百二十三隻二千〇五十萬噸、獨逸ニ二千〇九十隻五百十三萬四千七百二十噸アツタガ、開戰後四箇月間ニ拿捕サレタ船英船四十九隻ニ對シテ獨船八十隻、獨逸ニ抑留サレタ英船七十五隻ニ對シテ聯合國ニ抑留サレタ獨逸船百六十六隻黑海波羅的海ニ繫イダ英船七十一隻ニ對シテ獨逸ガ中立國ニ繫イダ船ハ六百四十六隻獨逸内ニ繫イダ船ガ三百二十七隻、其結果十一月末海ニ浮ンデル船英船一萬全體ノ九割七分ニ對シテ獨逸船約十隻、拿捕及抑留デ英國ノ失フタ船ハ開戰前ハ開戰後ニ三箇月間ニ五分位ニ登ラウト豫想シタニ事實一分九厘ニスギナカツタ。

一九一五年二月十五日國會デ海軍大臣チャーチルノ報告シタ處ニヨレバ最近三箇月間ニ英國ノ港ニ入ツタ船四千四百六十五隻、出タ船三千六百隻、中敵ニ沈メラレタノハ僅ニ十九隻、戰後六箇月間ニ沈メ又捕ハレタ船ハ掃海用ノ漁業船ヲ除イテ六十三隻ニスギヌ。

此事實ハ英國ニ於ケル船主相互保險組合中大ナルモノ、一デアル Liverpool and London War Risks Insurance Association デ一九一五年二月十二日ニ公ニシタ報告ニ依テモ確メラレルノデ、同組合ガ二月三日迄ノ六箇月間ニ引受ケタ戰爭保險一〇七、二三九、一八七磅、其保險料一、五四〇、八五

二磅、損害ヲ填補シテ差引純利益四四五、二九七磅ニ達スルガ、更ニ同組合ハ英國一切ノ戰時保險組合ノ保險高一億五千萬磅ニ對シ過去六箇月間ニ起ツタ損害及行方不明船ノ損害ハ併セテ三百萬磅以下從テ全體ニ於テ利益超過ダト見積ツタ。

チャーチルガ好ンデ佛蘭西革命カラナポレオン戰爭ニカケター一七九三—一八一四年乃チ前後二十一年間ニ敵國ニ拿捕又ハ擊沈サレタ英國船一萬八百七十一隻ニ登ツテトラファルガー大戦後ニモ毎年五百隻内外(一八〇六年五一九隻 一八〇七年五五九隻 一八〇八年四六九隻 一八〇九年五七一隻)ヲ失ツタ事ヲ引用スルノハ、海上交通狀態ノ全ク違ツタ事ヲ無視シタ比較デ、格別其爲ニ吾人ノ啓發サレル所ハナイノデアルガ、今日迄ノ處ニヨレバ、英國政府ノ國營保險ハ結局政府ニ少カラヌ純收入ヲ齎シタノミナラズ、民營保險率ノ暴騰ヲ防グ利益ガアツタ、特ニ一九一五年二月十八日獨逸ガ英國沿岸ニ航行スル船舶ヲ潛航艇デ攻撃スルコトヲ豫告シテ、中立國ノ船舶迄危クナツテ以來伯西カラ和蘭ニ航行スル和蘭汽船ノ保險料ガ二分ニ上ツタ時ニモ伯西カラ英國へ來ル英國船ノ保險料ハ國營保險ノ爲ニ一分以上ニ上ラナイ効果ヲ現ハシタ。

四 「モラリトアム」 Moratorium

「モラリトアム」トハ特定ノ期間債權者ガ債務者ニ向テ其債權ノ履行ヲ請求シ得ナイコト、スル制度デアル、從テ債務者ガ自ラ進ンデ其債務ノ履行ヲスルコトハ勿論自由デアル。

理論上ヨリ見レバ「モラリトアム」ヲ布クコトハソレダケ契約ノ破壞ヲ許スコトデ、此契約ノ一部

的破壊ヲ許サナケレバ、更ニ其以上ノ大災害ガ發生スル時ニノミ採用シテ然ル可キ政策デアル。換言スレバ銀行休業日ノ延長デ英國政府ハ名實相叶フタル經濟組織ノ停止ヲ實現シタノデアルガ、「モラトリウム」ニ依テ名ハ開業シテ實ハ閉業スル經濟組織ノ運行中止ヲ命令シタノデアル、故ニ「モラトリウム」ノ行ハレタ間英國ノ金融界ハ債務者ガ之ヲ援用スル程度ニ於テ平時トハ異ツテ居ツタデ、モシ、其ガ平時ト異ラナケレバ「モラトリウム」ノ施行ハ失敗シタモノト論ジテモ好イ、此點カラ見テ堀江博士ガ其著「歐洲戰時ノ財政經濟」一二七頁ニ「モラトリウム法ノ施行能ク其効果ヲ呈シテ戰時ニ於ケル金融上ノ取引ヲシテ殆ンド平時ト異ナラザラシムルヲ得タルハ英國ノ優越的特質ヲ發揮セシ一也」ト記述サレタノハ、常ニ簡單明白誤解ヲ許サナイ文章ヲ書カレル博士ノ優越的特質ニ對スル余ノ尊敬ヲ増加スル所以デハナカツタ。

ソレデ「モラトリウム」ニハ一部のノ「モラトリウム」ト全部的ノ「モラトリウム」トガアルガ、英國デハ前述ベタ外國爲替ノ崩壊デ其地位ノ危クナツタ引受業者ヲ斃スマイガ爲ニ取リアエズ八月二日ノ勅令(Proclamationヲカリニカク譯シテオク)デ「小切手及要求拂ノ爲替手形ヲ除キ、八月四日以前ニ引受ケラレタル爲替手形ガ支拂ノ爲呈示セラル、時ハ引受人ハ其ヲ再引受シテ舊滿期日ヨリ一箇月後ニ支拂フコトヲ得、但其再引受ノ日ノ英蘭銀行利率ニヨリ新支拂日迄ノ利子ヲ附加シテ支拂フ可シ」ト一部の「モラトリウム」ヲ實施シテ、倫敦金融界ノ總崩壊ヲ豫防シタ。

處ガカク爲替手形ノ支拂ヲ猶豫スルコトハ引受業者ヲ保護スルダケ其債權者ヲ害スルモノデ、モ

シ「モラトリウム」ヲ玆デ止メルナラバ、此手形ヲ取立テ、其代金デ自分ノ債務ヲ履行シ様ト思ツタ金融業者ハ大ニ困窮スルコトニナル、ソレデ勢ヒ「モラトリウム」ヲ銀行一般ニ延長スル必要ガ生ズルノデアルガ、モシ銀行ニ其預金ノ拂出ヲ止ムル權利ヲ與フルナラバ、其預金者タル商人ニモ其他人ニ對スル債務ノ履行ヲ延期スルコトヲ許シテヤラチバナラナイ、夫レダカラ今日ノ經濟組織ノ下デハ「モラトリウム」ヲ一部ニ限局スルコトハ殆ンド不可能ナンデ、一度之ヲ始ムル以上、全體ニ之ヲ及ボスノ必要ニ迫ラル、是レ故ニ八月六日一般の「モラトリウム」ヲ認メ「八月四日以前ニ振出サレ、日附サレ、又ハ締結サレタル一切ノ手形、讓渡證券又契約ノ支拂ガ九月四日以前ニ滿期トナレバ九月四日迄又ハ其滿期日ヨリ一箇月間(何レナリトモ遲キニ從ヒ)支拂ヲ延期スルコトヲ得、其間特別ノ定ナケレバ年六分ノ利子ヲ支拂フ可シ」ト定メ、此一般的「モラトリウム」ヨリ除ク左記ノ例外ノミヲ特記シタ。

(一) 賃銀、俸給、(二) 發生ノ際五磅ヲ越エザリシ債務、(三) 租稅、(四) 海上運賃、(五) 英國以外ノ住人又ハ英國以外ニ事業ノ本據ヲ有スル商店、會社、團體ニ對スル債務中英國ニ營業所ヲ有スル人、會社、商店、團體ガ英國ニテ負擔シタルニハアラザル債務、(六) 株券其他ノ證券ニ對スル利子配當、(七) 自己ノ發行シタル銀行券、(八) 政府ノ行フ又ハ政府ノ爲ニ行フ支拂(養老年金ヲ含ム)、(九) National Insurance Act 及(十) Workmen's Compensation Act ニヨル支拂、(十一) Trustee Savings Bank ノ預金者ガ其預金ヲ引出スヨリ生ズル債務。

上述第一回ノ「モラトリウム」ガ滿期ニ近クニツレテ更ニ之ヲ延長スベキカ或ハ直ニ廢止スベキカトノ議論ガ起リ、大藏省ガ各方面ニ其意見ヲ問合セタ結果、延長說ハ銀行、手形割引業者、株式取引所等ノ方面ニ盛デ其數三千六百〇三、非延長說ハ製造業者及就中小賣業者方面ニ盛デ其數四千六百五十三デアツタガ、九月三日更ニ一箇月ノ延長ヲ決シ、九月三十日更ニ十一月四日迄ノ延期ヲ決定シタ、コレデ八月四日以前ノ契約デ、例バ十一月三日ニ滿期トナツタ債務ハ十二月三日迄支拂ヲ延期シ得タワケダガ、コレガ最長ノ延期デ、十一月四日及其後ニ滿期トナツタ債務ハ通常通り支拂ハレルコト、ナツタ、但此最後ノ「モラトリウム」カラハ小賣業ヨリ生ジタ債權及家賃ヲ除イタ。

上述ノ如ク「モラトリウム」ハ三箇月ニ亙ツテ遂ニ消滅シ、一九一四年十二月四日以後ニハ之ニ浴シテ居ル債務ハ全クナイコトニナツタガ、之ヨリ先キ乃一九一四年八月三十一日 The Courts (Emergency Powers) Act ト云フ法律ヲ制定シ、直接又ハ間接ニ戰爭ノ爲ニ支拂能力ヲ失フタ債務者ニハ裁判所ガ其訴訟ノ進行ヲ停止シ、債權者ガ債務ノ取立ヲ強制シ得ヌコト、シテ以テ「モラトリウム」ニ代ル保護ヲ與ヘタ。

五 金貨問題

八月一日迄ノ恐慌デ英蘭銀行ノ金貨金塊ハ七月二十二日ノ四千萬磅カラ八月五日ノ二千七百六十萬磅迄減少シタ、夫デ此際出來得ル限り金貨ノ使用ヲ節約シ中央銀行ノ金準備ヲ豊富ニシテオク必要ガアルニ拘ラズ、一方公衆ハ出來得ル限り金貨ノ死藏ヲ始メルノミナラズ、平生圓滑ニ流通スル

小切手が振出人及銀行ニ對スル疑惑不安カラ流通不完全ニナル爲ニ、通貨ノ必要ハ愈々大トナツタ英國在來ノ慣例ニ依レバ此ノ如キ場合ニ應ズル法ハ銀行條例ヲ停止シテ一千八百四十五萬磅以上ニハ金準備ナクシテ紙幣ヲ發行セシメナイ制限ヲ撤廢シ、平生ハ市中銀行ノ金庫ノ中ニ隠レテ居ルガ、高々競馬場ノ勘定場ニシカ顔ヲ出サナイ英蘭銀行紙幣ヲ盛ニ市場ニ散布スルニアル、是ヲ見越シタ揚句ガ銀行利率一割トナツタ譯デ、一九一四年八月六日ノ The Currency and Bank Notes Act 「英蘭銀行ハ法律ノ定メタル制限以上ニ紙幣ヲ發行スルコトヲ得」ト規定シテ銀行條例ヲ停止シタ。但此規定ハ事實ニ行ハレナカツタンデ、英蘭銀行カラノ貸出ガ最盛デアツタ一九一四年九月二日ニモ、紙幣發行高六五、五〇一、〇七五磅ニ對シ、金貨金塊四七、〇五一、〇七五磅差引保證準備發行額千八百四十五萬磅デアツタ事ハ恐慌前ノ一九一四年七月十五日（紙幣發行高五六、九〇八、二三五磅ニ）ト相同ジカツタ。

夫ト云フノハ大藏省ガ英蘭銀行ニ代ツテ新ニ一磅及半磅ノ新紙幣ノ發行ヲ決シタカラデ、大藏省ハ八月七日ニ三百萬磅其後ハ毎日五百萬磅宛新紙幣ヲ發行シ得ル準備ヲ整ヘ各銀行ノ Current and Deposit Accounts ノ二割ヲ最高限トシテ、英蘭銀行利率デ各銀行ニ之ヲ貸出スコト、シタノデアル此制限ニヨル最高貸出制限高ハ二億二千五百萬磅デアルガ、最初各銀行ガ貸出ヲ受ケタ額ハ一千三百萬磅、年末ニハ更ニ減ジテ僅々十六萬九千磅トナリ、一九一五年二月二十二日ニハ十五萬九千磅トナツタ。

申ス迄モナク英國政府ガ紙幣ヲ發行スルトハ新例デ、主義トシテ論ズレバ鑄貨ヲ發行スル以上、紙幣ヲ發行スルニ何等差支ガナイ譯デアルガ、銀行紙幣ノ如ク銀行カラ金ヲ借ル人又ハ受取ル人ヲ通ジテ市場ニ現ハレルコト、セズ、政府ガ發行スルトスレバ無制限ニ其發行高ヲ膨脹セシメ得ル危険ガアル、現ニ一九一四年八月六日ノ The Currency and Bank Notes Act ニ

大藏省ハ本法ノ規定ニ從ヒ紙幣ヲ發行スルコトヲ得

トアルダケデ其金額ニ制限ナク、又

右ノ紙幣ハ大藏省ノ指令スル人ニ指令スルマ、ニ發行スルコトヲ得

トシテアツテ其用途ニ制限ガナイ、勿論新紙幣ハ英國銀行デ金貨ト兌換サレルコト、ナツテ居ル——但此英國銀行ノ引受ケタ兌換テフ新債務ハ其營業報告ニハ現ハレテ居ナイ——ガ這般ノ兌換請求ハ既ニ過度ノ振出ガアツタ時デナケレバ起ルモノデナク、其レ迄ハ大藏省ハ其レダケ無利子ノ借金ヲシタト同ジ事ニナル、ダカラカウ云フ規定ハ當局者ガ短視眼デアレバ得テ亂用セラレ易イノデ、既ニ政府ハ宜シク不換紙幣ヲ發行シ地方自治體ニ無利子デ貸附ケ、其ヲ以テ失職者ニ仕事ヲ與フルコト、スベシト云フ風ナ注文ガ現ハレタ事モアル。

要スルニ英國銀行紙幣ガ五磅ヲ最低トスルコトガ不便デ、金貨ノ使用ヲ節約スル必要ガアツタトシテモ何故英國銀行自身ニ一磅及十志ノ紙幣ヲ發行セザル簡單安全ナ手續ヲ取ラナカツタラウカト怪シム論者ガ多イノデアルガ、局外者タル私ニハ略ボ二ノ理由ヲ推シ得ル。

第一ハ是レデ銀行條例ノ停止ヲ實際ニ適用セズニスムコトデアル乃チ金準備ノ制限ノナイ政府紙幣ト云フ制度ヲ設ケ必要アルニ應ジ之ヲ増發スルトスレバ英蘭銀行券増發ノ必要ハナクナリ、事實ソレガ制限外發行ト同ジ性質ヲ有シテ居ツテモ、名目上英蘭銀行ハ制限外發行ヲナシタル事ナシト素人ニ向ツテハ論ジ得ル、是ハ獨逸ガ帝國銀行以外ニ貸附金庫ヲ設ケテ其處カラ金準備ナキ紙幣ヲ發行シテ中央銀行ノ地位ハ鞏固ニシテオク政策ト同ク、小供欺シニスギナイガ、英國デハ第二ニモツト實際有力ナ理由アリト察セシムル事實ガアル、夫レハ近時政府ガ此新紙幣デ以テ一週約百萬磅ノ割合デ金貨地金ヲ買入レ、一九一四年十一月四日ニ發行高三二、九三四、四一二磅ニ對シ一〇、五〇〇、〇〇〇磅デアツタ金貨及地金ガ、一九一五年二月二十四日ニハ發行高三六、六六一、二六二磅ニ對シ、二六、五〇〇、〇〇〇磅ニ登ツテ居ルコトデアル、モシ金融界ノ通説ノ如ク、大藏省ノ意向ガ紙幣ノ全額ニ相當スル迄之ヲ増加シテ行クニアルトスルナラバ、此政府紙幣ノ發行ハ通貨ノ不足ヲ補フト云フ當初ノ表面上ノ理由ヲ放レテ今ヤ政府ガ民間ニ散在シテ居ル金貨ノ若干ヲ集中セントスル爲ノ制度トナツタト推察セテバナラナイ、讀者モ知ラル、如ク、從來英佛獨等ノ諸國デハ非常ノ際ニハ引上ル積リデ民間ニ金貨ヲ流通セシメテ居ツタノデアルガ、此金貨ハ獨逸ノ如ク兌換停止ヲ宣スルト共ニ私人ノ財布ノ底ニ隠レテ中央銀行ニ蒐集スルコトガ甚ダ困難トナルカラ、英國デハ一方兌換ヲ停止シナイデ國民ノ信用ヲ維持シ乍ラ、徐々ニ紙幣ヲ發行シテ代リニ此金貨ヲ引揚ゲル巧妙ナル方法ヲトルモノト思ハレル、カクシテ金貨ヲ集メルナラバ、其ニハ本來法律上幾許ナケレバナ

ラストノ制限ガナイ爲ニ外國爲替大ニ逆トナレバ直ニ之ヲ送り出シテ然モ中央銀行ノ金準備ニ影響セシメナイ利益ガアル、乃チ戰爭後英蘭銀行ノ地金金貨ガ大ニ殖エテ其地位ガ鞏固トナツタニ甘ンbez、戰爭前英蘭銀行ガ持つテ居ツタニ近イ金貨地金ヲ政府紙幣ノ發行デ集メ上ゲレバ、之レデ英蘭銀行ノ金準備ヨリモツト自由ナ第一線ノ金準備ガ新ニ完成サレタ事ニナル、而テ英國ノ有力ナ政治家ハ私人ノ財布ニアル金貨ヲ國家ノ準備金ト見ル從來ノ政策ノ餘リ有功デナイコトヲ認ムルニ一致シテ居ル様デアルカラ、此政策ハ戰爭中ハ勿論、或ハ戰爭後迄モ繼續スル意思デアルカモ知レナイ。

尙右ノ新政府紙幣發行ト同時ニ政府ハ郵便爲替證書 Postal Orderヲモ法貨トシ其發行ニ手数料金ヲトラヌ事トシタノデアルガ、此制度ハ一九一五年二月三日ニ廢止セラレ、二月四日カラハ再ビ既往通りノ手数料ヲ徵收スルコト、ナツタ。

ソレデ開戰前頻ニ英蘭銀行カラ内國向ニ金貨ノ流出シタ現象ハ其後モ暫ク續イテ八月七日カラ十二日迄ノ間ニ更ニ四百十九萬七千磅ノ流出ヲ見タガ、八月十三日カラ九月二日迄ノ三週間ニハ逆ニ五百七十萬九千磅ノ流入ヲ見ルコト、ナツタ、コレハ各銀行ガ「モラトリウム」ヲ利用シテ日常ノ小使ニ必要ナ以上ノ預金ノ拂戻ヲ拒絕シ又ハ一切拂戻ヲ行ハナカツタガ爲ニ、一般人民ニ金貨ノ死藏ヲ始メルダケノ資金ガナクナツタ事ヲ主因トシテ、一方新紙幣ガ流通シ始メタノニヨルト考ヘレバ大過ナカラウト思フ。

是ハ外ヲ見テモ同様デ「モラトリアム」ノ行ハレツ、アツタ期間八月四日カラ十一月四日迄ニ英蘭銀行ノ金ノ在高ハ外國カラノ受入ニ依テ左ノ如ク増加シタ。

英國金貨 四、八五二、〇〇〇磅（内露國ヨリ 三、四〇〇、〇〇〇磅）

印度ノ金 三、四〇〇、〇〇〇

購入金塊 二一、〇一、〇〇〇

購入合衆國金貨 二一、〇八七、〇〇〇

五二、三五〇、〇〇〇

但以上ノ金貨金塊ハ必シモ全部實際英國ニ搬シテ來テ、上陸サシタ譯デハナク、例バ印度カラノ金トハ Secretary for India ガ倫敦デ所持シテ居タ金塊ヲ英蘭銀行ニ讓渡シタバケノ事、其外ニモ加奈陀及南亞弗利加デ英蘭銀行ガ受取ツタ在外金貨金塊ガ少クナイ。

夫ハ一時北米合衆國カラ倫敦ヘ金ヲ直送スル事ガ危險デアリ又時ニ不可能デアツタ爲ニ、合衆國ノ債務者ガ金ヲ加奈陀ノオツタワニ送レバ英蘭銀行ハ恰モ之ヲ倫敦デ受取ツタモノト看倣シ、其額ヲ其債權者ノ預金ニ加フルト云フ取計ヲヒヲシタノニヨルノデ、此八月十二日ニ公表サレタ制度ヲ專ラ利用シタノガ北米合衆國デアツタ。

例バ紐育市ハ一九一五年一月一日迄ニ倫敦及巴里デ支拂ハチバナラヌ市債ヲ持ツテ居ツタガ、外國爲替ノ杜絶カラ其支拂ニ大ニ困難ヲ感ズルコト、ナツタ其際 J. P. Morgan & Co. - Kuhn Loeb & Co. トガ之ヲ救フ爲ニ「金プール」ヲ組織シ六分利付ノ内國市債一億弗ヲ賣出シ一切ノ銀行及信託會

社ノ援助ヲ受ケテ大ニ成功シ、其市債ハ直ニ打歩附デ轉賣セラル、好景氣ヲ呈シタガ、ソウシテ得
タ手取中右ノ歐洲ヘノ債務ノ支拂ニ必要ダツタ八千二百萬弗ハ合衆國金貨ヲ以テオツタワニ送ラレ
タンデ、其後外國爲替ノ恢復ヲ圖ル爲ニ合衆國全國ノ銀行ノ作ツタ第二ノ一億弗ノ「金プール」モ、
モシ歐洲ヘ金ヲ送ル必要ガアレバオツタワヘ送ル事トキメテ居ツタ。

右ノ表デモ分ル通り十一月四日迄英國カラ金貨ハ外國ヘ流出セヌ事トナツタ、云フ迄モナク英國
ノ對外債權ハ對外債務ヲ超過スルノデアルカラ永遠ニ於テ金ノ流出ヨリ流入ガ多クナリ、又爲替相
場ガ一時瓜哇ノ砂糖大買入ノ爲アムスタダムヘ逆ニナルト云フ風ナ例外以外ニハ常ニ英國ニ有利ニ
ナル事ハ疑ガナイ、但普通銀行ガ第一回ノ「モラトリウム」ヲ利用シテ拂戻ヲセズ、普通銀行ガ第二
回第三回ノ「モラトリウム」ノ恩典ヲ自ラ拋棄シテ之ヲ利用シナカツタ時ニモ一般商人ハ之ヲ利用シ
テ拂戻ヲシナカツタンダカラ、外國カラ英國ヘノ債權ヲ取立テルユトハ當時全ク不能ダツタンデ、
夫レダカラ英蘭銀行券ヤ政府紙幣ノ兌換ハ繼續シタ上ニ、金ノ輸出ニハ八月四日ノ勅令デ條件附戰
時禁制ノ品トシタ以外ノ制限ハ附シナカツタト云ツテモ、ソレデ金ノ輸出ヲ人爲的ニ止メナカツタ
ト云フ證明ニハナラナイ。

要スルニ銀行休業日延長後英國ノ金融界ガ前ノ如ク恐慌ヲ呈セズ、英蘭銀行ノ利率ガ八月七日カ
ラ六分、八月八日カラ五分トナツテ、夫ガ一九一五年二月末ノ今日迄續ク様ニナツタノハ英蘭銀行
ガイクラデモ紙幣ヲ發行シテ銀行ニ貸出ス事ガ出來ル様ニナツタト云フコトヨリモ、又新政府紙幣

ノ發行貸出ト云フヨリモ、實ハ債權ノ回收ヲ差止メテ一時的ノ活動中止ヲ行ツタ「モラトリアム」ノ御蔭デアル、如何ニ英國ノ對外債權が大キイニモセヨ、又如何ニ英國ノ有力ナ政治家ガ金貨死藏ノ愚ヲ説イテ廻ツタニセヨ、モシ英國ノ銀行ガ一箇月間支拂停止ヲシタノデナケレバ、經濟界ノ紊亂ハ驚ク可キモノガアツタニ相違ナイ。

ソレダカラ永久ニ亘ツテ金貨問題ヲ解決シタノハ英國ノ對外債權デアルガ、一時ニ向テ之ヲ解決シタノハ「モラトリアム」デアル、自由ニ公衆ニ其銀行預金ヲ引出サシメ、其紙幣ヲ自由ニ金貨ニ引換ヘタ上デ尙ホ兌換ヲ停止シナカツタト云フノナラ英國人ガ我等ハ獨逸ノ如ク兌換ヲ停止セズト誇ルハ意味ガアル、兌換請求ノ材料トナル紙スラ渡サヌ様ニシテオキ乍ラ、紙ヲ持ツテ來タナラ引替ヘタト誇ルハ事餘リニ兒戲ニ類スル。

同様ニ獨逸ノ論客ガ英國ハ「モラトリアム」ヲ行ヒタルガ獨逸ハ之ヲ行ハズ、獨逸ノ經濟的潛勢力ハ英國ヨリモ大ナリト叫ブモ亦愚論デアル、何トナレバ其引出ニ應ジテ與ヘタルハ單純ナル紙片デアツテ、其紙片ノ兌換ハ停止セラレテアツタカラデアル、モシ不換紙幣ノ發行能力デ經濟力ガ測ラレルナラバ財力ノ強弱トハ印刷機械ノ運轉速力デアル。

一言ニシテ盡セバ兌換ヲ停止シタ獨逸ニハ「モラトリアム」ハ無用デアリ、「モラトリアム」ヲ行フタ英國ニハ兌換停止ノ必要ハナカツタ、英ヨリ獨ヲ嘲ルモ獨ヨリ英ヲ罵ルモ、共ニ等シク愚論デアル、堀江博士ハ國產獎勵ノ訓示ヲ出シテ得意ニナル程低能ナ宮内大臣ハ英獨ニハ居ナイト憤慨セラ

第十九卷

(一四六)

雜錄

歐洲戰時ノ經濟

第一號

一四六

レダノデア^ルガ、其英獨デモ戰時ノ「愛國の經濟論」ニハ兎角ニ愚論ガ多イ。(未完)